

# 中間時代 反キリストの予表

聖書フォーラム 福岡集会

2020年4月18日

出典：“The Feasts and Fasts of Israel” Arnord G. Fruchtenbaum, TH.M,PH.D

1

## ダニエル書第11章の構成

- 先代の王たち (2～20節)
- アンティオコス4世 (21～35節)
- 反キリスト (36～45節)

2

## 先代の王たち (BC480～175)

- ペルシヤの王 アハシュエロス (2節)
- ギリシヤの王 アレキサンドロス (3～4節)
- 北の王たちと南の王たちの戦い (5～20節)
- 19節 北 アンティオコス3世 (大王)
- 20節 北 セレウコス4世フィロパトル

3

## アンティオコス4世の登場

- アンティオコス3世 (大王) の子
- 前の王の弟
- 前の王が殺されて、表舞台へ
- 正統な王位継承者は、前の王の子 = 甥
- 甥の後見人のふりをして登場

4

## 王位を横領する（21節）

- 卑劣な者
- 国の尊厳は与えられない
- 不意に（安全なときに）やって来て

5

## 巧言を使って国を堅く握る（22節）

- 陰謀・策略を用いて王位をものにした
- 他国の王などと組んで資金・軍事力を
- 正統な王位継承者（甥）を暗殺
- 暗殺実行者も口封じのため闇へ

6

## 洪水のような軍勢も打ち砕く（22節）

- アンティオコス4世に反対する勢力
- 洪水のような軍隊 = 大軍
- アンティオコス4世は、敵軍を打破

7

## 契約の君主をも打ち砕く（22節）

- モーセ契約（律法）におけるリーダー
- **大祭司**（レビ族アロンの家系、終身職）
- 大祭司オニアスを辞めさせた
- 自分の意に沿う者に替えた

8

## 彼は同盟してはこれを欺き（23節）

- エジプト王とは、おじ・甥の関係
- 前170年、エジプトと同盟条約
- 表向きは、友邦関係を結ぼう
- 本心は、エジプトへの影響力強化

9

## ますます小国の間で勢力を得る（23節）

- 西からローマ帝国の勢力が伸びてきた
- シリヤの支配地域は縮小傾向
- アンティオコス4世が勢力を得るといっても
- 比較的小規模な領域

10

## 不意に肥沃な地域に侵入する（24節）

- 不意に = 安全なときに
- 相手方に安全だと思わせておいて
- 警戒を緩めたところを突いて攻撃する
- 攻撃対象は、農産物の豊かな地域
- 警告なしに攻め込んで、収穫物を奪った

11

## 彼の父たちもしなかったことをする

- 彼は、分捕り物を、彼らの間で分け合う
- 彼ら = 略奪戦に参加する協力者たち
- 協力者たちに分配して、つなぎとめる
- 王室の金庫にゆとりなし

12

たくらみを設けて要塞を攻めるが、それは**時が来るまで**のこと（24節）

- エジプトはじめ他国への陰謀と攻撃を続けた
- しかし、それも、**神が許す時まで**
- 彼の治世は、12年間

13

## 第1次エジプト戦役（25～28節）

- 北のシリアが南のエジプトを攻撃
- エジプトは内部から裏切りが出て敗北
- しかしシリアの思惑には乗らず併合は免れる
- かわりに財宝を差し出す
- ユダヤではシリアに対する反乱勃発
- シリアは帰国途上で、反乱を制圧

14

## 聖なる契約を敵視して（28節）

- 北の王が死んだとのデマ→シリヤへの反乱
- 帰国途上で、制圧戦3日間
- モーセ契約（律法）に基づく祭司制度を敵視
- ユダヤ人の死者4万人、奴隷4万人

15

## 第3次エジプト戦役（29～30節）

- 「再び南へ」、歴史上は3度目の戦役
- 今度こそは、征服併合をめざす
- キティムの船＝ローマの軍船
- 上陸したローマ軍と衝突し、敗北
- ローマ軍の要求を受け入れ、撤退

16



## エジプトからの撤退（30節）

- 落胆する・・・エジプト征服の夢が消える
- 引き返す
- 聖なる契約にいきり立つ・うっ憤をユダヤ人に
- ほしいままにふるまう・・・迫害プログラム実行
- 帰って行く・・・イスラエルの地に再び来る

17

## 聖なる契約を捨てた者たち（30節）

- モーセ契約を捨てたユダヤ人たち
- ギリシヤの文化や宗教を取り入れよう
- ヘレニスト
- このときすでに大祭司は、不正な人物に交替
- アンティオコス4世は、ヘレニストを重用

18

## 彼の軍隊は立ち上がる（31節）

- 直訳「その勢力は、彼の側に立つ」
- その勢力とは、モーセ契約を捨てたユダヤ人たち
- ヘレニスト
- 彼らはアンティオコス4世の側に立った
- アンティオコス4世も彼らを重用した

19

## ヘレニストたちの行動（31節）

- 聖所を汚す・・・祭壇で豚をささげた
- とりでを汚す・ダビデの町にシリヤ軍と駐留
- 常供のささげ物を取り除く・・・毎日朝夕のささげ物をやめさせた
- 荒らす忌むべきものを据える

20

## 荒らす忌むべきもの（31節）

- 忌むべきもの = 偶像
- アンティオコス 4 世はゼウス像を据えた
- 前168年 キスレウの月（11～12月） 25日
- 神殿域、「祭壇の上に建てた」
- 豚の犠牲、遊女を入れての儀式
- 神殿と神殿域は汚れ、さびれ、荒廃した

21

## ユダヤ人による反乱（32～35節）

- 契約を犯す者たち・・・アンティオコス 4 世の側に立ったユダヤ人たち
- 自分の神を知る人たち（32節）
- 民の中の思慮深い人たち（33～35節）
- 巧言を使う多くの人（34節）

22

## 自分の神を知る人たち（32節）

- 祭司マタティアと5人の息子たち
- 反乱を指導した家族
- 祭司マタティアは1年で戦死
- 三男ユダが引き継ぐ
- 別名マカベア（マカバイオス）「鉄槌」

23

## 堅く立って事を行う（32節）

- （直訳）彼らは強い、そして偉業を成し遂げる
- シリヤ軍を何度も打ち破った
- 前165年 エルサレムを奪回
- キスレウの月25日 神殿をきよめた

24

## 民の中の思慮深い人たち（33～35節）

- ユダヤ人の中の賢い人たち
- 多くの人を教え導いた
- 王の禁令に背く→死（剣にかかり、火に焼かれ、とりことなり、かすめ奪われて倒れる）
- 彼らへの助けは少ない（34節）・・・助けとなったのはマカベアたち、しかし小さな助け

25

## 巧言を使う多くの人（34節）

- マカベアたち反乱軍が優勢になる
- 本心はヘレニストに同調
- 形勢を見てマカベア党のふりをする
- 後に次男シモンの子からハスモン王朝
- ハスモン王朝の政治姿勢はヘレニストへ

26

## 迫害における神の目的（35節）

- 思慮深い者たちのある者は、彼らを練り、清め、白くするために倒れる
- 迫害の起きることを、神が許されるのはなぜか
- 信仰の義人たちを、練り、清め、白くするためである

27

## 練り、清め、白くする

- 練る・・・金属を溶解製錬して不純物を除く
- 清める・・・小麦をふるいにかける
- 白くする・・・洗ったり、磨いたりする

28

## 苦しみの期間は定められている

- 35節後半 「終わりの時まで、それは定めの時はまだ来ないからである」
- アンティオコス4世を王とする期間は、
- 神が定めておられる
- 終わりの時まで = 王の治世が終わるときまで
- 前164年

29